



市では「富士見市男女共同参画推進条例」を制定し、性別にかかわらず、個人の能力が尊重される社会をめざして“いっぽいっぽ”取組みを進めています。

☎ 人権・市民相談課 ☎271

男女共同参画キーワード

ジェンダーってなに？

ジェンダーとは、身体の特徴など生物学的な性別の違いではなく、「女性とはこういうもの」「男性とはこういうもの」というような、社会のしくみや文化によってつくられた性別のことをいいます。

国際的にも使われ、男女共同参画を語るうえで必ず出てくるキーワードです。

ジェンダーがもたらす課題

例えば「女性はピンク」「男性はブルー」「女は家事・育児」「男は外で仕事」というのもつくられた性別によるものです。女性全員がピンクを好むとは限りません。「女性はピンク」というイメージは、これまでの文化の中でいつの間にかつくられていったものです。「女は家事・育児」「男は外で仕事」も同じです。このように性別で役割を分担する意識が、一昔前までは強く根付いていました。

今では男女共同参画意識が広がってきたことで、性別で役割を分担する意識は減ってきています。しかしながら、まだ日本の社会では、女性の約6割が結婚・出産を機に会社を退職し、その後復職しようと思っても、子育てと仕事の両立が難しく、なかなか希望の仕事や正社員に戻れない現状もあります。いまだに「子育ては女性」「仕事は男性」という性別による役割分担意識が残っていることがうかがえます。

ジェンダーによる男女の差別をなくして、一人ひとりの実力が活かされ、尊重される社会を確立していくことが必要です。

男女平等ランキング～ジェンダー・ギャップ指数～

日本は世界153か国中121位

世界経済フォーラムが2019年12月、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数を発表しました。この指数は経済、教育、健康、政治の4つの分野のデータから作成され、日本の順位は153か国中121位でした。これはG7(主要7か国首脳会議)で最下位です。

日本では、特に政治分野への女性の参画が遅れており(144位)、例えば国会議員(衆議院議員)に占める女性の割合は約10%で、世界最低水準となっています。



一方、現職として世界最年少34歳の女性首相が誕生したフィンランドでは、国会議員の女性比率が47%。同国では女性が国会議員になることは珍しくなく、年齢や性別に関係なく能力を発揮できることがうかがえます。日本では一昨年「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が成立したばかり。今後のさらなる取組みが求められています。

ジェンダーの視点で、世の中を見てみよう

世界では、女性だからという理由で学校に行くことができず読み書きができなかったり、重労働を課せられている国もあり、ジェンダーに基づく偏見や不平等が多く存在していることが課題となっています。

ジェンダーは、私たちの意識や生活の中に溶け込んでいるため、知らず知らずのうちにそれに縛られた言動をしてしまうことがあります。

男女共同参画社会を実現するためには、家庭や職場、学校などあらゆる場に存在するジェンダーに気づき、見直していくことが大切です。

富士見市男女共同参画セミナーのお知らせ

「広告の炎上を考える！～ジェンダーってなあに？～」

テレビやネットのCMの事例をもとに、広告に潜む差別を分かりやすく解説します。

とき／2月29日(土)午後2時～4時(午後1時30分開場)

場所／鶴瀬西交流センター

定員／50人(無料、申込順)

主催／市、富士見市男女共同参画推進会議

申込み／2月3日(月)から平日午前8時30分～午後5時15分に直接または電話で

※市ホームページからも申込可

※お子さんの同伴可。手話通訳、保育あり

(1歳～未就学児、若干名、申込順)

☎ 人権・市民相談課 ☎271



講師 ^{たなかとうこ} 田中東子氏
大妻女子大学文学部教授